

「リスク・フリー・レートに関する勉強会」第2回議事要旨

(平成27年5月29日(金)16時30分～18時、日本銀行本店会議室)

1. 議事の概要

- 第1回議事要旨が承認され、関連資料とともに、日本銀行ホームページ上で公表することが承認された。
- 金融庁から、金融指標に関するIOSCO原則(2013年7月)に関する説明が行われた。
- 事務局から、国際的な検討状況およびリスク・フリー・レートの候補となっている各取引(GCレポ、無担保コール、有担保コール、OIS)の状況についてアップデートがあった。特に、GCレポと無担保コール(O/N)については、取引が大幅に増加していることが示された。
- 事務局からの報告の後、データの十分性、およびリスク・フリー・レートの利用について意見交換が行われた。
- 議長より、次回会合は6月下旬を予定していることが示された。

2. 参加者の意見

- 国債決済期間短縮化でGCレポがT+0になれば、リスク・フリー・レートの候補となり得るが、現状では無担保コールレート(オーバーナイト物)を選択するのがよい。
- 国債決済期間短縮化は、2018年頃と先の話なので、現時点で可能な範囲でリスク・フリー・レートを特定し、国債決済期間短縮化実施後に改めて検討してはどうか。
- 円のOIS取引が参照しているのは無担保コールレート(オーバーナイト物)であり、OISと無担保コールは一体的に議論することが可能なのではないか。
- OIS取引は少ないが、新たに取引を執行しようとした場合に、すぐ金利が動くほど流動性が乏しいとは言えない。
- 翌日物金利をディスカウントレートとして用いる場合には、現在価値算出等にかかる計算負荷が増す可能性がある。
- OISがCCPでディスカウントレートとして使われているのは、変動証拠金の付利が無担保コールレート(オーバーナイト物)によって行われているため。
- リスク・フリー・レートを特定する上では様々なパラメーターがあり、まずは様々なレートのプロコンを明確化したうえで議論してはどうか。
- 新しいレートを導入する場合は、対顧客取引やそのヘッジといった利用目的との適合性や、会計上の扱いに留意する必要がある。

以上

「リスク・フリー・レートに関する勉強会」第2回会合 参加者

(メンバー)

議長	みずほ銀行	木村 淳一
副議長	野村證券	橋本 茂
	S M B C 日興証券	尾島 一博
	S M B C 日興証券	松下 和洋
	ゴールドマン・サックス証券	田口 研吾
	ゴールドマン・サックス証券	田内 学
	大和証券	猪谷 幸雄
	大和証券	帯刀 和直
	ドイツ銀行	小林 啓
	野村證券	福田 俊一
	野村證券	石田 隼人
	バークレイズ証券	森原 恒輔
	バークレイズ証券	村山 大介
	みずほ銀行	笠松 義人
	みずほ銀行	小森 亮介
	みずほ証券	葛西 弘道
	三井住友銀行	山田 佳廣
	三井住友銀行	山本 浩司
	三菱東京UFJ銀行	西井 謙一
	三菱東京UFJ銀行	片岡 大輔
	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	青木 康人
	ユービーエス・エイ・ジー	井上 裕嗣
	ユービーエス・エイ・ジー	牛嶋 靖夫
	I S D A	有馬 康修
	I S D A	森田 智子
	全国銀行協会	小山 寛隆
	全国銀行協会	永田 和浩
	日本証券業協会	丸野 雅人
	日本証券業協会	中瀬 裕也
	日本証券業協会	武田 創

(オブザーバー)

金	融	庁	玉	川	英	資
金	融	庁	中	村	香	織
金	融	庁	水	谷	登	美男
金	融	庁	田	嶋	一	基
日	本	銀	行	藤	田	研 二
日	本	銀	行	福	田	格

(敬称略)

以 上